

和倉温泉の

原型をたずねて



「御便殿」皇太子時代に大正天皇がお泊りになった部屋（青林寺内）

和倉温泉

日本を代表する、海の温泉地のひとつ和倉温泉は、今年、開湯1200年を迎えた。今日、温泉街には、高層ホテルや近代的な和風旅館が立ち並び、観光バスが往来して

いる。

この、能登観光の拠点として多くの浴客で賑わう和倉温泉は、先人たちが築きあげてきた魅力を大切に継承するとともに、時代に合わせた設備の近代化などを進めてきた。そのことにより、温泉客の

ニーズに合わせ発展し続けている。

観光拠点へ

和倉温泉が、現在のように温泉を楽しめるようになったのは明治期以降である。それ以前は、遊興での入浴は禁止され、湯治での利用に限られていた。

明治5年、約200年に渡り湯の権利を持っていた湯番頭から和倉に湯の権利が移ったことで、観光地として和倉の発展が始まった。

この発展により、明治42年には、当時、皇太子であった大正天皇が皇族として初めて和倉を行啓されるまでになった。このとき、殿下の御駐泊所として建てられたのが、御便殿である。

御便殿の周囲には桜が多く、「御便殿の桜」と、和倉八景に数えられた。

また、大正5年、皇太子であった昭和天皇など、皇族の方々が御便殿にお立ち寄りになられている。

御便殿への道

当時の面影を求めて和倉温泉街を訪ねてみることにし

た。和倉温泉駅から県道と倉・和倉停車場線を北に進むと、和倉温泉口南交差点へ出る。この交差点を旧県道と倉・和倉停車場線（市道と倉72号線）へと左折し、和倉温泉観光会館前を過ぎてしばらく進むと道は二手に分かれる。ここを左手へと直進すると、普通自動車が交差するのがやとといった狭い道（市道と倉17号線）になる。

もとは薬師堂と言われているので、温泉に関する言い伝えも残っている。この神社の裏手の階段を上っていくと湯の谷へと向かうことができる。神社の前の道をさらに進むと、左手に湯の谷へと続く上り坂が現れる。この坂の上りに御便殿が建っていた跡がある。この場所に御便殿があった頃には、近隣の児童などが遠足に訪れていた。現在でも、道の両側に桜の木々が並び、和倉八景の面影を残している。

この通りを進んでいくと、左手に神社が見えてくる。和倉の守り神とされている少比古那神社である。社伝には、和倉温泉の始まりであるといわれる湯の谷に温泉が湧き出したことを神に感謝して祠を建てたのが、神社の始まりとある。

御便殿

御便殿は、寝殿風総檜造りの本殿と附属建物の便殿からなる建物であった。



少比古那神社



御便殿の平面図（信行寺蔵）

建設には宮内庁の配慮により木曾御料材を使用し、土木作業には地元民が奉仕した。

御便殿建設に当時の金額で1万5千円（一般の家は千円で建てることができたそうである）がかけられていることから、この奉迎が和倉にとつて一大プロジェクトであったことがわかる。

また、御便殿は、高所に造られ、その下方には、当時、海水浴場であった白崎海岸があるなど、とても見晴らしの良い場所であった。そのためもあって、多くの人々が訪れていたそうである。

その後、和倉公民館としても使われていたが、昭和51年修築を機会に青林寺に移築された。

御便殿の姿を見に、青林寺を訪れてみることにした。

御便殿跡前の坂道を登っていくと、和倉温泉の始まりの場所とされている湯の谷がある。永承3年（1048）に地殻変動のため、湯口が海中に移るまでは湯が湧いていたといわれている湯の谷は、ひっそりとたたずんでいる。湯の谷前を過ぎると、道は細くなり、下り坂になる。この坂を下った所に青林寺があった。

はくがんざん 白巖山青林寺

石造りの階段を上っていくと、山門が迎えてくれる。山門の先には本堂があり、その右手にある庫裏部分が御便殿の本殿であった建物である。



「御便殿」の本殿（青林寺内）

青林寺の裏山や境内は、ツツジの名所で、和倉八景のひとつに「白巖山のつつじ」として数えられている。この裏山は、和みの丘公園として整備されており、参道には新西国三十三ヶ所の観世音の石仏も安置されている。

お寺の方にお願ひして御便殿の中を見せていただくことができた。

部屋は、和風の落ち着いた感じで、天井が高く手の込んだ造りになっており、障子戸で仕切られた奥と右手には縁側がある。この障子戸も、通常の1.5倍ほどの幅のあるもので、中央に外が見えるようにするためであろうか、ガラスがはめ込まれている。



「御便殿」の便殿（信行寺内）

けいいうんざん 溪雲山信行寺

縁側は、ガラス戸で囲まれており、寺の庭が見渡せるようになっていている。移築される前は、この縁側や、部屋の中から七尾湾の景色をゆっくりと楽しめたことであろう。一部は信行寺にも移築されていると伺い、この部屋から眺める海や能登島などの姿を思い浮かべながら青林寺を後に信行寺へ向かった。

信行寺は、青林寺のすぐ近くにあり、ここもまた、和倉八景に「溪雲山の展望」と数えられた場所である。展望は寺の裏山からのものである。岩に覆われた裏山が、かつての海岸であったともいわれる。

信行寺に移築された御便殿



は、附属建物であった便殿の一部で、二つの座敷が続いている。この座敷は御便殿にあった頃に貸座敷に使われていたことがあった。今では、多くの温泉旅館に大広間があるが、まだ少なかった頃には、

この貸座敷を利用していたそうである。この座敷で和倉のもてなしの心が育まれたのだろうか。御便殿は、和倉温泉の原型ともいえる姿をしていた。